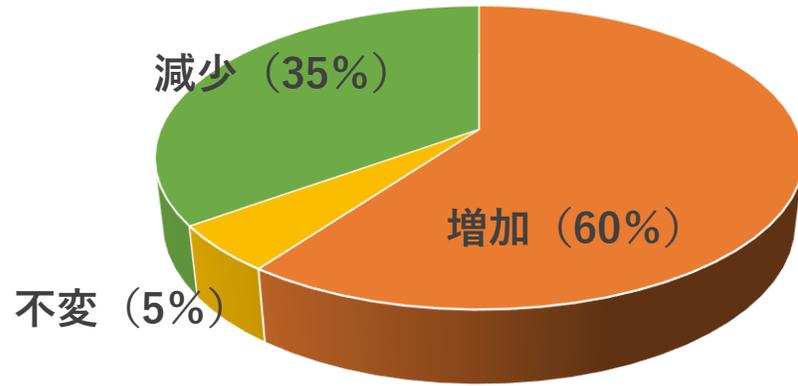


令和6年度景況調査

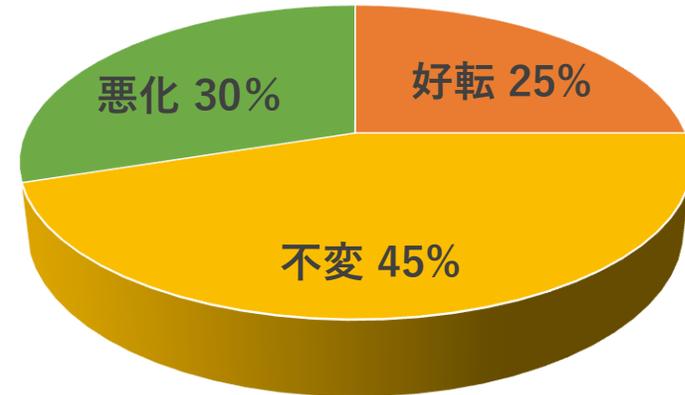
第四四半期(1月～3月)

①調査結果（その1）

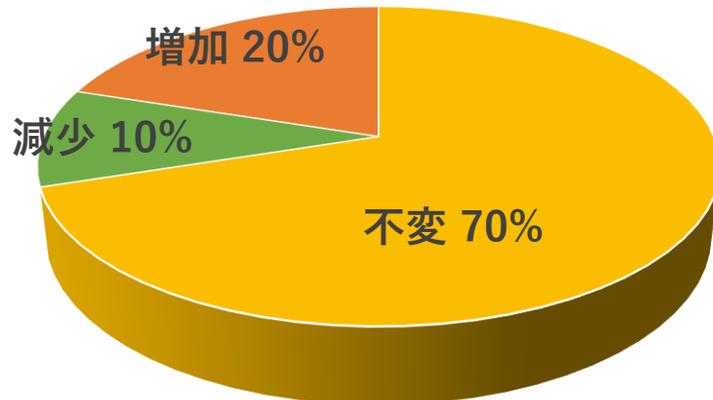
売上高の状況（前年同期比）



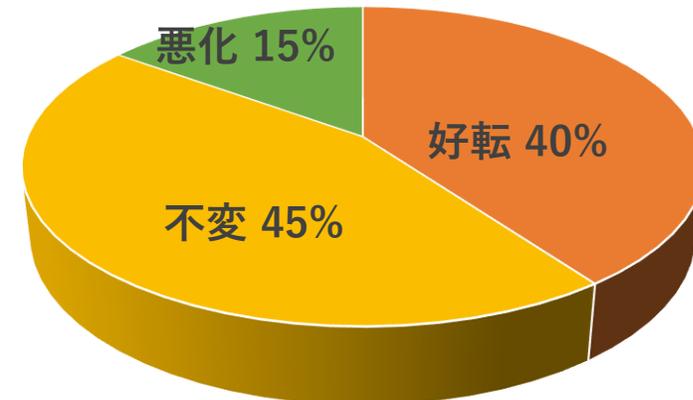
前年比経常利益の状況



従業員数の変動

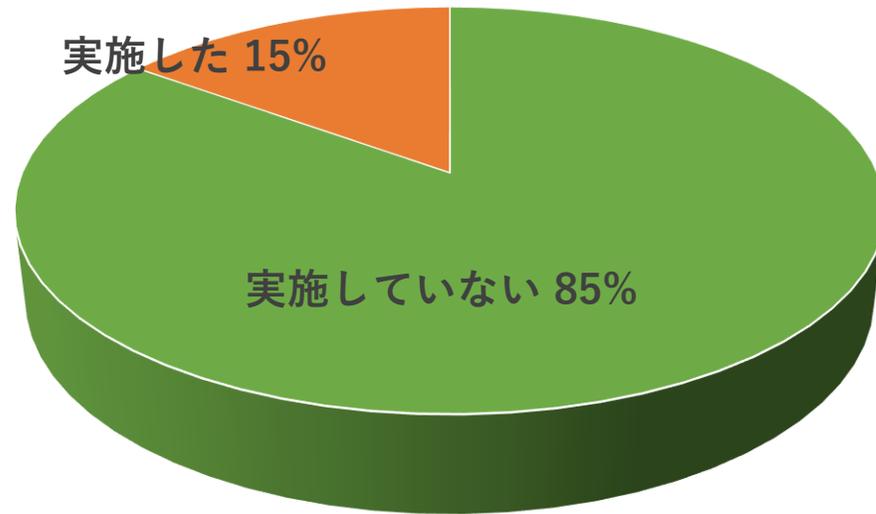


自社業況の状況

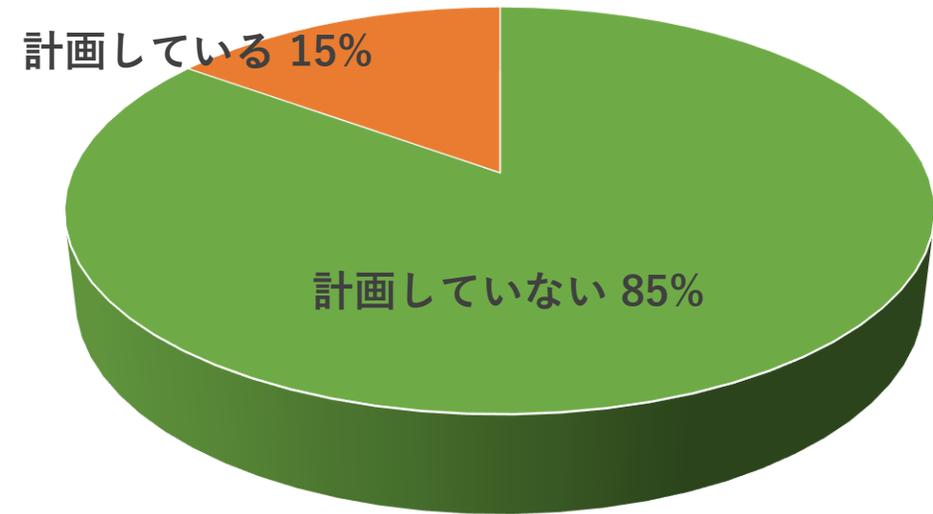


①調査結果（その2）

設備投資の実施状況



設備投資計画（来期）



②分析結果

売上高は、調査対象事業所20社のうち65%（12社）が前年同時期と比較して増加、35%（7社）が減少しており、昨年と比較して経済活動が活発になっていることが窺えます。半数以上の事業所売上が伸びる一方で、経常利益が増加した事業所は25%（5社）に留まっており、原材料価格の高騰に対して適正な価格転嫁を行えず利益率が低下する事業所が増加しています。

自社の業況を総合的に見て「好転した・前期と同等」と回答した事業者は85%（17社）となっており、物価高騰・人材不足等の問題が山積している中で徐々に経営状況が回復している事業所が増えています。

設備投資については、15%（3件）が今期で実施したと回答しており年間を通して設備投資を行う割合は大きく変動はありません。

商工会はこうした状況を踏まえながら、国や県、町の支援施策を有効に活用し、経営課題の解決に努めてまいります。